

## 鄭清文短編小説「苦瓜」「清明時節」と

### その舞臺劇『清明時節』におけるテキスト變容について

松崎 寛子

#### はじめに

臺灣作家鄭清文（一九三二～）は日本統治期すなわち日本語國語體制下で小學校教育を終え、國民黨統治期すなわち北京語國語體制下で中等教育から大學教育を受け、銀行員として勤務してきたかわら、作家活動を行っている臺灣人である。代表作に短編小説「三本足の馬（原題：三腳馬）」（一九七九年）などがある。

鄭清文の初期作品である二編の短編小説、「苦瓜」（一九六八年）と「清明時節」（一九六九年）は、二〇一〇年に吳念眞監督によってひとつの物語へと編集され、舞臺劇『清明時節』に戯曲化された。小論では、鄭清文の文學作品が、文學テキストから演劇脚本へと書き換えられる過程において、どのように改編されて、新しいテキストへと變容していったかをめぐり、その時代背景をも視野に入れながら検証する。

「苦瓜」と「清明時節」は、兩作品とも不倫をテーマとしたものであるが、發表された一九六〇年代當時はほとんど注目されないものであった。しかし、二一世紀における吳念眞による舞臺劇は後述するよ

うに大盛況であった。六〇年代臺灣において鄭は不倫を通して何を表現しようとしたのか、そして吳が現代臺灣において不倫をどのように扱い、現代の觀衆はどのように受け入れたのか、以上を視野に入れながら、吳による鄭の作品の舞臺化、及び吳の舞臺作品で再現された六〇年代臺灣は、現代臺灣社會を生きる人々にとってどのような意味を持つのか考察する。

#### 第一章 文學テキストについて―「苦瓜」と「清明時節」

##### 第一節 「苦瓜」

短編小説「苦瓜」は最初に一九六八年五月雑誌『純文學』第四卷第五期に發表された。その後、一九九八年に麥田出版社から出版された『鄭清文短篇小説全集卷一水上組曲』に収録された。鄭清文は一九五八年に文壇デビューしたが、當初、臺灣文藝界はその多くが外省人で占められており、本省人でありながら戦前中國大陸で育ち、當時聯合副刊の編集をしていた林海音に助けられながら、彼はようやく文壇での地位を築きあげていくことが出来た。『純文學』は一九六七年に林海音が創刊した文學雜誌である。「のちに彼女「林海音」は自

分で純文學出版社を設立するが、わざわざ自ら手紙を書いて私に投稿依頼をしてくれた」と鄭清文自身が述べているように、『純文學』創刊號に、鄭清文の短編小説「校園裡的椰子樹」が掲載されている。この件について、鄭は次のように言及している。

私の創作過程で、いくつか重要な出来事があるのですが、一つは、一九六二年、雑誌『文星』に載せたら、私の作品が特選を獲ったことです。(中略)二つ目は、純文學創刊で、林海音さんが、私に文章を書いてくれないか、と言ってきたのです。以前は投稿するだけだったのに、人に執筆を頼まれるなんて、やっぱり気持ち違いますよね。このように、だんだんと自分の作品に對して、自信を持つようになりました。(中略)小説に對する概念が完全に成熟したものが、「校園裡的椰子樹」です。私にとつて、文學とは、小説とは、一つの生活であり、一つの藝術であり、一つの思想なのです。その後は、書きたいものが書けるようになりました。<sup>(2)</sup>

このように、『純文學』創刊號に發表された「校園裡的椰子樹」は、鄭の創作黎明期において、重要なメルクマールであると言えよう。その一年後に同じく『純文學』發表された「苦瓜」は、「必ずしも皆が良い作品とは言えないが、書きたいものを書けるようになって」<sup>(3)</sup>、作家鄭清文の成長期における作品の一つと言えよう。一九六八年に發表された「苦瓜」は、後の作品「三腳馬」等に比べると、それほど脚光を浴びた作品ではないが、その四十二年後、舞臺劇「清明時節」として舞臺化され、大いに話題を呼んだのである。

「苦瓜」の主な登場人物は以下の通りである。

① 秀卿・夫輝昌の生前中は専業主婦、輝昌の死後は近所の秦奥さん

の家で洗濯をして生計を立てる。

② 輝昌・秀卿の夫。結婚八年目に梨花と不倫をし、梨花と心中する。

③ 梨花・輝昌の不倫相手。輝昌と心中する。

④ 友仁／友信・輝昌と秀卿の息子。それぞれ七歳と五歳。

⑤ 華堂・秀卿の友人。輝昌の死後、秀卿にプロポーズをする。

⑥ 秦奥さん・輝昌の死後、秀卿を洗濯婦として雇う。産褥についている。

「苦瓜」は全部で七節からなっており、現在(輝昌の死後)と過去(生前の輝昌と秀卿との確執、輝昌と梨花が心中するまで)が交互に語られ、主人公秀卿が子供たちに苦瓜を食べさせるシーンから始まる。輝昌の死後から六ヶ月餘り、秀卿は、子供たちに一日三食、一碗の茶碗蒸、一皿の苦瓜の水煮、一碗の青菜スープしか食べさせていない。秀卿は子供たちに無理矢理苦瓜を食べさせようとし、それでも食べようとしぬ子供たちを跪かせる。輝昌の死後、秀卿は子供たち、特に長男の友仁が輝昌に似ている氣がしてならず、子供たちを叱る時も「まるで友仁の背後にいる輝昌に對して言っているかのよう」<sup>(5)</sup>な錯覺に陥り、次のように反芻するのだ。秀卿を裏切った夫は死後も亡靈のように息子に乗り移り、彼女につきまとい、彼女を苦しめるのである。

輝昌は生前、梨花と不倫をして三ヶ月になることを秀卿に告げ、離婚を申し出た。秀卿は離婚はできないと斷り、輝昌と秀卿は言い争いになる。

「名義上は、我々は依然として夫婦でいよう。僕は梨花と一緒になる」「私は?」「君は自由に行動していい」「私も他の男を見つけてもいいということ?」「もちろんいい」「なんですって? (中

略) あなたは私があの賣女と同じように、適當に男を換えられる  
とも思っているの?」「そんなに賣女、賣女と言わないでくれ  
ないか」

一九六八年當時の臺灣における離婚率を見てみると、男性が〇・八  
パーセント、女性が〇・七パーセントで、男女合わせた離婚率は〇・  
七五パーセントである。舞臺劇『清明時節』が公演された二〇一〇年  
の離婚率七・一二パーセント、及び二〇一一年の七・六一パーセン  
トと比べると、一九六〇年代の離婚率はその約十分の一であった。  
二〇一〇年の舞臺劇『清明時節』公演に際して、雑誌『聯合文學』主  
催による吳念眞監督と鄭清文の對談で、吳念眞は次のように述べてい  
る。

民國五十年代、あの頃は丁度臺灣の經濟が發展し始めた時代で、  
不倫の問題も大體その時代から注目されるようになりました。  
これに對し、鄭清文は次のように答えている。

實際不倫は昔から今まで、どの時代もずっとあります。ただ、現  
在は大變自由な氣風で、現代の人は比較的軽く扱うようであるの  
とは違つて、當時は厳しい社會問題として扱われました。

結局、秀卿は二人を裁判に訴えることにする。それは輝昌が言う  
「はした金のため」ではなく、「ただ、原因は私〔秀卿〕にあるのでは  
ない」と他の人にわからせたい<sup>11)</sup>からであった。しかしその後、彼女は  
輝昌と梨花が心中自殺をしたことを知るのである。

前述した對談記事で鄭が述べているように、舞臺劇が公演された現  
代臺灣社會においては、離婚や不倫は比較的軽く扱われているが、鄭  
が作品を發表した六〇年代では、離婚や不倫は當事者達にとって非常  
に肩身の狭い思いをしなくてはいけないことであつたことが想像でき

る。秀卿は自分を裏切つた夫を裁判に訴え、自分に非がないことを  
堂々と公開することで、身勝手な夫に抵抗しようとした。一方、裁判  
に訴えられた輝昌は、社會の厳しい目に耐えられず自殺するのであ  
る。男性を中心とした「家族」という形態を維持するために組織化さ  
れた男性優位社會に苦しめられた秀卿の小さな抵抗と、男性である輝  
昌自身もそうした社會風紀の犠牲となつたことが示されているのであ  
る。

秀卿は輝昌の死後、子供たちを見るたびに、輝昌のことを思い出し  
てしまう。秀卿は子供たちに辛く當たるだけでなく、自分自身にも試  
練を與える。彼女は、人使いが荒いことで有名な秦奥さんのところで  
洗濯の手傳いをする決心をするのだ。それは息子の影に見える死んだ  
夫の亡靈を、一心不乱に働くことで振り切るかのようなのである。秀卿を  
慰めるために度々やつて來る華堂は、友仁と友信にと、牛乳とパンを  
持つて秀卿のアパートを訪れ、彼女にプロポーズをする。しかし、秀  
卿は「わたしは秦奥さんのために一ヶ月、洗濯をすると返事したの。  
(中略) きつとやつていけると思う」と、華堂の求婚に應えるとも應  
えない返事をする。

「僕は、僕はもう歸るよ」華堂は元氣なく言つた。(中略)「お母  
さん、華堂おじさんはまた來る?」友仁が聞いた。「來ると思う  
わ」「本當?」「本當よ。あなたたち、早く牛乳を飲んだら、寝る  
のよ」「お母さん、牛乳が一番おいしいよ」友信も負けずに言つ  
た。「おいしい? 苦瓜よりもおいしい?」「うん!」二人の子供は  
力強く頷いた。彼女は臺所に苦瓜がまだ三三個あるのを目にした  
が、それはしよせん明日明後日のことだ。

以上で物語は幕を閉じるのであるが、このラストシーンから、秀卿

が意固地になつていた自分から解放され、臺所に残つてゐる苦瓜―それは彼女の心の苦しみはまだ完全に消えていないことを表していると言えよう―を認めつつも、自分と子供が置かれた状況を直視し、生きて行こうと決意したことが讀み取れるであろう。鄭は、秀卿が華堂のプロポーズを受け入れる―それは、再び男性優位な社會の下に入ることを意味する―かではなく、秀卿自身が自分に向き合えるかを強調したのだ。最終節で彼女は華堂に次のように傳える。「昨晚、私は夢を見たの。また輝昌の夢を見たのだけど、それはとても暖かい夢だった。私は夢の中で泣いたようだけど、ちつとも怖くなかった。私はもう彼に向き合うことができるようになったようだよ<sup>14</sup>」。それはかつて彼女を苦しめた夫の亡靈から解放され、男性優位な社會にとらわれないう生活を送ろうとする秀卿の姿を表しているよう。

## 第二節 「清明時節」

短編小説「清明時節」は、「苦瓜」發表の一年後、一九六九年に雑誌『自由談』に掲載され、その後「苦瓜」と同じく一九九八年に麦田出版社から出版された『鄭清文短篇小説全集巻一水上組曲』に収録された。

「清明時節」の登場人物は以下の通りである。

- ① 建邦…明霞の夫。靜宜と不倫をしていたが、自殺をする。
- ② 明霞…建邦の妻。三十歳前後。
- ③ 靜宜…建邦の不倫相手。建邦の死後、三年續けて清明節に建邦の墓参りをしている。
- ④ 志毅…建邦と明霞の息子。五、六歳。
- ⑤ 老人…前年、建邦の墓の周りの草を刈つてくれたが、翌年亡くなる。

⑥ 阿木叔…老人の息子。父の遺言を受けて建邦の墓の周りの草を刈る。

物語の前半は靜宜の視點から、後半は明霞の視點から語られる。

靜宜は、輝昌の墓参りをするのは今回を最後にするつもりであった。友諒が靜宜にプロポーズをしていて、靜宜はそれを受けることに決めたのだ。

建邦は三年前、お互いにもう二度と會わないと決めて最後に會つた日の夜、オートバイで交通事故を装つて自殺をする。靜宜は翌日の新聞記事を見て建邦の死を知る。

昨晚の彼の表情、彼の行動、彼の言葉、彼の姿勢から、確かに一つの決心が見えた。(中略)自殺をするのは弱き者だ、という人もいれば、逆の考え方をする人もいる。しかしこれがまた何の意味があると言うのだ?<sup>15</sup>

靜宜は、生前建邦が見たいと言つていた白いワンピースを着て、建邦の墓参りに行く。建邦の墓に着くと、墓の周りの草が綺麗に刈られているのに、まだ墓紙が置かれず、ロウソクもともされていないのを見て不思議に思う。しかし「これの何が重要なのか」と思い直し、例年通りその周りをぐるりと回ると、墓を離れて山を下りて行く。その時、靜宜は息子を連れた明霞とすれ違ふ。この場面を境に、物語は明霞の視點から語られる。

三年前、建邦が亡くなった時、明霞は最初、交通事故が原因だと考えていた。しかし保険がかけられていたことを知ると、彼女は全てを悟るのである。明霞が保険金の半分を寄付したのも、「その女が誰かは知らないが、その女に建邦の考えを知らせなくてはならない」と考えたからであった。

建邦はとていもいくじなした、そして責任感がない。(中略) 彼は自殺さえすれば責任を軽減できるとでも思ったのか？

明霞は建邦の裏切りに對する怒りをまだ小さな息子、志毅にぶつける。

彼女は以前、志毅に言ったことがあった、お前はお前のお父さんのような責任感のない人になるな、と。あなた、きれいさっぱり逃げられたなんて思わないでちょうだい。<sup>18)</sup>

自分を裏切った夫のことを、息子に悪く伝えることは、男が勝手をしている家父長制に苦しめられてきた明霞のささやかな抵抗とも言えよう。前述した「苦瓜」の秀卿のように、息子と夫の姿を寫し合わせ、息子に辛く当たってしまう。それはやはり、明霞も夫の亡き後、家父長制の下でその亡靈に苦しめられるかのようなのである。

「お母さん、僕喉乾いたよ」「うるさいわね。喉が渴いても少しは我慢しなさい」彼女は彼の姿に建邦の影を見たような気がした。<sup>19)</sup>

しかし、明霞は、前年の墓参りで出會った草刈りの老人の出會う事で、自分自身を苦しめていた亡靈から逃れるのである。前年、建邦の墓参りをした時に草を刈ってくれた老人に、御禮として五十元を渡し、そんなに多く受け取れないという老人に、明霞は受け取るように促す。すると老人は來年も草刈りをすると約束するのである。しかし老人はその年に亡くなり、その前に老人は息子の阿木叔に來年の清明節にあそこの草を刈るように言いつけるのだ。老人の墓はとも小さく、周りにはまだたくさん草が生えているのを見て、明霞は悲しい気持ちになる。

明霞は、大きく、そしてきれいに草が刈られて整えられた建邦の墓の前に戻る。墓紙を墓に貼り、線香と銀紙を燃やしながら、突然、老

人の小さな墓の前に戻りたい衝動にかられる。そして、先ほどすれ違った白いワンピースを来た女(静直)のことを思い出し、今、建邦の墓の前に立っているのは自分か、あの女か、わからなくなるのである。明霞はこう考えた…先ほど老人の墓に對して自分が感じたと同様の衝動を、おそらくあの女も建邦の墓に對して感じたのだろう。そのため線香も銀紙も持たずに、ひたすら建邦の墓の前に戻りたくなったのだろう。そして、女が羨ましくもなるのである。なぜなら、明霞が建邦の墓参りをするのは、男性を中心に世代繼承させていく家族制度における女性の役割を果たす儀式を全うするためであり、先ほど老人の墓の前に立った時と同じような親近感を、建邦の墓には感じられないからだ。そして、三年前も、三年たった今日も建邦のことを何も理解していないと氣づいた時、明霞は息子に話しかける。

「志毅」「お母さん、喉が渴いたよ」「志毅、お父さんに對してきょうならを言いなさい。山のふもとに着いたらサイダーを買ってあげるから」「さようなら、お父さん」「志毅、お父さんはいい人？」「うん」志毅は力強く頷いた。「あなたのお父さんはいい人のはずね」明霞はなんとかこの一言を言い終えると、建邦が死んでから初めて、本當に涙を流したのだった。<sup>20)</sup>

明霞が息子に父親の墓に對して「さようなら」と言わせている、この最後のシーンから、明霞が夫の裏切りと死のショックから立ち直ったことがわかる。傳統的家族制度のしがらみから抜け出そうとした時、彼女はようやく自分の感情に素直になり、涙を流すことができたのだ。

鄭谷苑は、鄭清文は一九九〇年の作品「春雨」で、妻に子供ができないことを理由に妾を持つとうとする男性を批判的に描き、「生命の

延長繼續は本當に必ず自分の血縁を通さなくてはいけないのか<sup>22)</sup>という問題を提起したと分析している。「苦瓜」、「清明時節」兩作品では、夫に裏切られた妻が、息子、つまり夫の姓を繼ぐ者に、夫の姿を重ね合わせ、息子に辛く當たるものの、物語の結末部では、妻は夫への恨みから解放され、息子に對する態度も溫和になるのである。鄭清文は、一歳で母方の叔父の養子となり、その姓を繼ぐ者として期待されながらも、自身は世代繼承を重視する觀念に疑問を持つていた。鄭は、生母と養母に可愛がられたが、彼女らは鄭が幼少時に亡くなり、養父の再婚相手である繼母は鄭に對して愛情深く接しなかつたようである。養父も傳統的な考え方を持つ寡黙な人で、鄭は結婚するまで孤獨で寂しい時期を送つており、後に娘に「金は儲ければ持てる、しかし家庭の關係は壊れてしまうと補修することはできない<sup>23)</sup>」と言ひ聞かせていたという。

白水紀子は『中國女性の二〇世紀』で、中國文學における女性作家が描く母親像と母娘關係及び家父長制への對抗について論じる中で、「これまで中國文學は、一方で慈愛・犠牲・忍従などの言葉で修飾された慈母の像を描くことで、「母の神話」を作り出しながら、同時にこのイメージとおよそかけ離れた惡魔に變つた母を繰り返して描くことで、「母の神話」の解體が行われてきた<sup>24)</sup>と述べている。例えば、白水は、張愛玲は『金鎖記』において「七巧に手中の權力を放棄させるのではなく、反對にそれを最大限に發揮させることでこれまでの母親像を異化し、惡魔に變つた母もろともに中國の家父長制を葬り去ろうとしたかにみえる<sup>25)</sup>」と分析している。

鄭の兩作品における女性も、息子に辛く當たり、慈母のイメージからかけ離れた母親であり、その姿はまるで自分自身で夫の亡靈を息子

に見いだし、自分を苦しめているかのようなのである。しかし、特に「清明時節」における、自殺した夫を墓に葬り、息子に夫（息子にとつては父親）と決別させているシーンは、家父長制を葬り去り、自ら新しい生活を切り開こうとしている女性を表象しているとも考えられよう。

二〇一〇年、舞臺劇『清明時節』公演に際して、鄭清文は『自由時報』に載せたエッセイで次のように述べている。

シエイクスピアは言った。「弱き者、汝の名は女なり。」これは本當だろうか。(中略)「清明時節」で描いたのは二人の臺灣女性である。一人は妻、もう一人は闖入者だ。この小説の中では、男性が弱者である。彼は逃避を選び、死を以て苦境を解決し、苦難を二人の女性に残していく。墓は死者の歸結である。二人の残された女性が出會つた場所は、あの男の墓だった。(中略)墓は終點であるが、二人の女性にとつて、今が起點なのだ<sup>26)</sup>。

これは「清明時節」において、靜宜が建邦の死を知つた時に「彼は弱き者なのかもしれない、しかし逆に強き者かもしれない」と感じたこと、明霞が「建邦はとていくじなした、そして責任感がない」と自殺した建邦を責めたこと、そして「苦瓜」で秀卿が「輝昌こそが逃避者ではないか」と不倫相手と心中した輝昌に對する心の中の反論を説明しており、鄭は「清明時節」の二人の女性は、決して弱者ではない<sup>27)</sup>と續けるのである。

鄭は「苦瓜」「清明時節」の二編の短編小説において、父系によつて繼承されていく家父長制の抑壓に悩まされていた自分自身の姿を、夫の不倫に苦しむ女性の姿に重ね合わせ、家父長制への批判を表現したのである。

## 第二章 舞臺劇『清明時節』<sup>(20)</sup>

### 第一節 舞臺劇と原作

二〇一〇年十月、鄭清文の短編小説「苦瓜」と「清明時節」が緑光劇團公演の舞臺劇『清明時節』として吳念眞監督により戯曲化された。吳念眞は一九五二年、臺灣九份近くの鑛業の町、侯硐に生まれ、劇作家、作家、演出家として知られる。『とうさん（原題：多桑）』（一九九四年）等の映画監督としても活躍している。緑光劇團は、一九九三年、「誰でもわかる芝居」を目標に、李永豊を中心とする臺北藝術大學演劇學科卒業生達によって創立された。二〇〇〇年に吳念眞が劇團に加わると、同監督の舞臺劇『人間條件』シリーズが「國民戲劇」として毎回公演の度に爆発的人氣を博し、緑光劇團は多くの臺灣の人々に受け入れられる國民的劇團に成長した。

舞臺劇は『清明時節』という題名であるが、内容は鄭清文の短編小説「清明時節」と「苦瓜」二作品の結合となっている。舞臺劇での登場人物の名前は主に「苦瓜」で登場する人物の名前が使用されている他、「清明時節」「苦瓜」兩者共に登場しない人物も加えられている。舞臺劇『清明時節』の主な登場人物は以下の通りである。

- ① 秀卿（「苦瓜」にも登場）… 専業主婦、一兒の母。
- ② 輝昌（「苦瓜」にも登場）… 銀行に勤めている。秀卿と結婚して八年。
- ③ 梨花（「苦瓜」にも登場）… 輝昌と不倫をして八ヶ月。
- ④ 潘父（小説には登場せず）… 梨花の父。小學校の先生。秀卿と輝昌の結婚式で仲人をした。
- ⑤ 鬍鬚的（お髭さん、小説には登場せず）… 街のフルーツパーラーの店長。

- ⑥ 羅主祕（小説には登場せず）… 街の取締役。氣が弱い。
- ⑦ 李人渣（小説には登場せず）… 羅主祕にくつついている。聲が大きく、汚い言葉を平氣で使う。
- ⑧ 陸女史（小説には登場せず）… 鎮民調停委員會の委員。北京語しか話せず、臺灣語には通譯が必要。第六幕にのみ登場。
- ⑨ 友信（「苦瓜」にも登場）… 秀卿と輝昌の息子。小學一年生。しかし本人は舞臺に登場せず、第四幕で聲のみ登場。
- ⑩ 墓工のおじさん（「清明時節」の阿木叔+老人にあたるか）… 序幕及び最終幕にのみ登場。

このように、登場人物は鄭清文の短編小説をもとにしてしているもの、人物設定は小説のそれと異なる部分もあり、舞臺劇では物語の構造も部分的に書き換えられている。そして、舞臺における臺詞は全て臺灣語である。この點は後述のように臺灣アイデンティティの問題に關連するが、ここではまず舞臺劇の構造を概観しておく。

幕	あらすじ	該當小説
序幕	墳墓。梨花が墓へ向かって歩いて行く。墓工の歌聲。	「清明時節」
第一幕	秀卿の家。輝昌と秀卿の夫婦喧嘩。秀卿が梨花は誰か問いつめる。	「苦瓜」
第二幕	梨花の家。潘父が大げさな標準中國語で國語スピーチコンテストの練習をしている。梨花が登場。	なし
第三幕	お髭さんのフルーツパーラー。輝昌と梨花の密會。李人渣が輝昌に氣付き聲をかけ、思わず梨花は會社の新人だと言ふ。輝昌、不満をぶつける梨花。やるせない氣持ちになる輝昌、慰めるお髭さん。	梨花の臺詞の一部は「清明時節」
第四幕	秀卿の家。梨花と不倫をしていることを知っているという秀卿。言い争う輝昌と秀卿。	「苦瓜」

第五幕	第一場・梨花の家。潘父は梨花が輝昌と不倫しているの 前から知っていたと梨花に話す。 第二場・三人の女が秀卿、輝昌、潘父、梨花の話をする。 第三場・二人の銀行員が輝昌の不倫を噂する。	なし
第六幕	調停委員会。陸女史の司會進行の下、秀卿、輝昌、梨花の 關係が話し合われる。四人の他に主祕、李人渣、潘父も参 加する。	「苦瓜」の法廷 シーンに相當。
第七幕	秀卿の家、輝昌は、自分と梨花が辛い思いをしているの は全て秀卿のせいだと怒りをぶつけ、外へ出て行く。	なし
第八幕	梨花の家。輝昌が二人の關係への不安を吐露、梨花は「私 はあなたより勇敢よ！」と不満をぶつける。秀卿が登場、 梨花と言い争いになる秀卿。潘父が登場、潘父に泣きなが ら訴える秀卿。	なし
第九幕	第一場・梨花の家。梨花と潘父。國語スピーチコンテスト は散々の結果だったと告げる潘父。梨花は「勇敢なのは女 性だとわかった、秀卿も勇敢だ」と話す。 第二場・梨花の家。潘父と輝昌。二十年前、實は潘父が不 倫をし、妻がある日首を吊って自殺したことを輝昌に告白 する。	なし
第十幕	秀卿の家。輝昌が秀卿に優しい言葉をかけ、抱きしめる。	なし
第十一幕	第一場・フルーツパーラー。輝昌と別れる決心をする梨花。 輝昌は梨花を強く抱きしめると、梨花はその場を去る。 第二場・暗くなる。オートバイが衝突する音。	なし 「苦瓜」
第十二幕	第一場・近所の奥さんに輝昌の事故死を知らされ、氣を失 う秀卿。 第二場・ライトが消える。 第三場・椅子に座って手紙を読んでいる梨花、その側に立 つ潘父。	なし 「苦瓜」
第十三 A幕	秀卿の家。輝昌の葬式。三人の女性と李人渣、陳代表が、 輝昌が多額の保険をかけていたことを噂する。 秀卿の家。葬式の後。潘父が尋ねて来る。秀卿は八年間の 結婚生活において、輝昌のことを理解していなかった、と 話す。	秀卿の心情は 「清明時節」
第十四幕	墳墓。輝昌の死の五年後。梨花と秀卿の會話。	なし

以上、舞臺劇『清明時節』の内容は、鄭清文の短編小説「苦瓜」と「清明時節」を組み合わせたものではあるが、新たに脚色された部分も多い。

例えば、鄭の二作品には登場しない梨花の父、潘父について吳監督は、「原作において梨花役の背景についてそんなに詳しく描寫されていなかったので、今回、舞臺劇に書き換える時、私は彼女に何かを付け足そうと、彼女の父親を教師に設定した。父親が先生であり、梨花がそれでもこうして妻のいる夫とのゴタゴタをおこすので、自分により多くのプレッシャーをかけることになる。これは、彼女が前衛的な女性であることをよりはつきりと突出させている」と述べている。また、「苦瓜」の法廷のシーンを鎮民調停委員会に置き換えたことについては、「法廷のシーンを書く時になって、法廷は舞臺では上手く表現しにくいことを考慮しました。私はそれを鎮民調停委員会に換えました。そうしたら面白くなりましたよ、だってああいう鎮民調停委員会に参加するのは皆どうでもいいような人達で、その土地のごろつきやら隣近所の人やらで、誰もがあれこれと口出しし彼らの決定に干渉したがって、全くめちやくちやで、荒唐無稽で、結局最後には誰もが自分のメンツのために發言して、本當に調停が必要な當事者が一番寂しいんです」と語っている。

また、原作の「苦瓜」、「清明時節」では男性主人公の生前(過去)よりも、その後に残された女性の心情描寫に重點が置かれているが、舞臺劇ではむしろ生前の男性主人公と彼を取り巻く女性たちやその他の人物の物語になっている。そして「清明時節」では、不倫相手の女性、靜宜は、彼女に求婚している別の男性と新しい人生を歩むため、建邦の墓を訪れる。建邦への恨みから解放されないのは妻の明霞であ



り、彼女は老人の墓を訪れることで建邦から解放されるのである。しかし、舞臺劇では、妻の秀卿は五年後の墓参りの際、「今日は自分の爲に來たの、彼のためではない」と夫への恨みから既に解放されているのである。一方、不倫相手であった梨花は輝昌の死後も解放されず、最終幕でも「彼の軟弱、殘忍さ、無責任が忘れられない」と秀卿に心情を吐露し、逆に「今、彼『輝昌』は自由よ。風のように、吹きたいところへ吹いているでしょう」と、秀卿に勵まされるのだ。

舞臺劇『清明時節』は、二〇一〇年十月八日に臺北市城市舞臺で初演された。吳念眞は「臺灣にはたくさん素晴らしい文學作品があるのに、多くの人達は既にほとんど忘れている。舞臺の公演を通して、より多くの臺灣作家と彼らの作品が知られるようになって、これらの作家の成長の経験と感動を感じてもらえたらと思う」と語っている。「臺灣文學劇場」シリーズを十年かけて創作、公演する計畫を立てた際に、その封切りとして鄭清文の作品を選んだことについては、「鄭清文は自分が子供の頃からの文學アイドルで、大學で輔仁大學の會計學部に入ったのも鄭清文が銀行で働いている影響で、當時は彼のように、晝間は銀行で働いて、夜家に歸って時間がある時に文章を書きたかった。だから文學作品を舞臺劇に書き換えようとした時に、まず頭に浮かんだのは鄭清文だった。鄭清文の小説は日本の監督小津安二郎を連想させ、いつも静かで、しかしその静かさの中に實はたくさん起伏がある」と述べている。

臺北の城市舞臺では、二〇一〇年十月八日から十月一六日まで上演された。そして二〇一〇年十一月十三日に高雄の至徳堂で、十二月五日、六日には臺南の市立文化中心で、そして十二月十八日には臺中の中山堂で上演された。綠光劇團の公式ブログによると、臺北初演から

三日で全てのチケットが賣り切れてしまったため、十月十七日の臺北公演、十二月十七日の臺中公演、そして二〇一一年一月二一日、二二日、二三日に再度、臺北公演を追加したが、追加分も九七パーセントが賣り切れたという。以上のチケットの賣れ行きを見ると、舞臺劇『清明時節』は成功したと言いうことができよう。『清明時節』は、公演前から臺灣のテレビ局、公視や民視のニュース番組で取り上げられた他、臺北市内のバスの車體廣告(ラッピングバス)が出されたり、臺北市の目抜き通りである中山南路沿いに廣告の幟が並べられたり、公演前から話題を先取りしていた。また、「臺灣文學劇場」シリーズの第一段として、二〇一〇年九月八日に臺北市社會教育會館で記者會見が行われた。會見には吳念眞と鄭清文の他、李昂、小野、王拓など著名な臺灣作家が参加し、吳念眞と綠光劇團の「文學作品上演十年計畫」にふさわしいセンセーショナルなスタートを切れたと綠光劇團はブログに記している。

## 第二節 不倫問題と言語問題

觀客の感想を調べるために、臺灣の大手ブログサイトを次表の通りランダムに検索した。

ハンドルネーム	鑑賞場所	ブログサイト	主な感想
stania <sup>(1)</sup> (女)	臺北	痞客邦	吳監督が今後も臺灣文學作品を高めていくことを期待。梨花と潘父の親子愛に同情。
小八 <sup>(2)</sup> (女)	臺北	痞客邦	最終上演のチケットが取れてラッキー。結婚しているなら誰もが感動して涙するはず。
Mr.Plus <sup>(3)</sup> (不明)	臺北	痞客邦	不倫を題材にしたのは正統への疑問を呈示するためだろう。

oneone <sup>(44)</sup> (女)	臺北	痞客幫	調停委員會のシーンは男女の苦しい心情が現れていた。來年の文學劇場も是非観に行く!
Super KK <sup>(45)</sup> (男)	臺南	yahoo 部落格	原作を讀んでいなかったもので、居眠りが心配だったが、不倫を題材にした舞臺は居眠りをする暇もないくらいドキドキした。
小紅豆 <sup>(46)</sup> (女)	臺北	yahoo 部落格	臺詞は全て臺灣語で笑いあり涙あり、「臺灣文學劇場」の第一作に相應しい。不倫をめぐる心情を上手く表現している。
Wu 4169 <sup>(47)</sup> (女)	高雄	無名小站	不倫相手の父親が秀卿にお辭儀をするシーンで涙が出た。この舞臺は當時の社會の言論に對する壓力を表している。
staustar <sup>(48)</sup> (女)	臺北	無名小站	不倫は現代社會では日常茶飯事ではあるだろうが、當事者には辛いのだろうなあ。
nanhe <sup>(49)</sup> (女)	臺南	yam 天空部落	自分の家族と婚姻生活を大切にしようと思った。
nhsnahai <sup>(50)</sup> (男)	臺南	yam 天空部落	不倫という重いテーマだが、皆、愛すべき人達が描かれていた。

以上の観客の『清明時節』に對する反應はおおむね肯定的であることがわかるだろう。その中でも「不倫」という話題性、また臺灣文學の認知や存在感を擴大しようとする吳念眞の信念に同調する意見が多く見られる。

吳念眞は雑誌『聯合文學』での鄭清文との對談において、「舞臺を通して現代の觀衆に全ての時代背景と経緯を理解させるのは簡単なことではない、だからわたしは「不倫」のようにいつの時代にも起こりえる物語を選びました。友達に皆このことを知ると、えー、吳監督あなたがまさか不倫のような題材を選ばなんて、と言いましたよ(笑)」

と「不倫」をテーマに選んだ理由について語っている。二〇一〇年二月に「品格教育推展聯盟」が發表した調査結果によると、調査の對象の臺灣住民の九一パーセントが本人もしくは配偶者に不倫経験があると答えているという<sup>(51)</sup>。また不倫を題材にしたテレビドラマ『犀利人妻』が、二〇一〇年十一月五日から二〇一一年四月一五日に臺視で放映されて大人氣を博し、最高視聴率は一二・八パーセントを収めた。これは視聴可能なチャンネルが一般家庭で百餘りある臺灣においては非常に高い視聴率である。このように、現代臺灣において、不倫問題はもはや「他山の石」ではなくなっており、不倫問題を扱った舞臺劇『清明時節』が成功を収めたのもこのような從來の家族形態に揺らぎが見えてきた社會背景が原因の一つとして考えられよう。鄭の原作が書かれた六十年代は、前述したように不倫は厳しい社會的制裁が與えられる問題であつたが、現代臺灣社會では比較的身近な問題として氣輕に扱われると同時に、いつ自分の身に起こるかかわからない問題になつているのだ。

一方、『中國時報』は、「彼「鄭清文」が言うには、當時の臺灣はタブーで溢れていて、政治、色情を含む多くの題材は、皆書くことができなかった。よつて彼は庶民の不倫を書くことを選び、不倫において當事者の大きな心理的苦境を創造したのである<sup>(52)</sup>」といった記事を載せている。不倫という題材を通して、鄭は當時の抑壓された社會に生きる人々の苦しみを描いたと見ることが可能であることを示唆している。このような鄭が捉えた當時の社會背景を、吳念眞も舞臺劇『清明時節』において同じように描いている。例えば、當時の臺灣における言語問題に關する描寫である。潘父が勤務先の小學校で國語スピーチコンテストに強制的に参加させられ、「大げさなくらい」標準的な

中國語で原稿を讀む練習をするものの、結局コンテスト當日、潘父は「一つの國家に皆が通じる言葉があるのは大切だが、學校では、言うまでもなく、話さなければ罰せられ、標準的でなければ臺灣國語と言われて笑われ、こんなんでは却って學びたくないと思う人も出て来る」と臺灣語で演説するのである。また、舞臺の臺詞は鎮民調停委員

の陸女史の臺詞以外、全て臺灣語で話されている。陸女史は臺灣語が理解できず、通譯を通してようやく他の人の臺灣語の會話を理解することしかできない。李人渣が興奮して臺灣語で罵り始めると、陸女史は大げさなくらい標準的な北京語で「國語で話してくださらない？こは正式な場所よ！」と注意する。しかし李人渣は「國語を話せだど？でもおれが國語を話すとおんたもつとわからないんじやないかね？」と陸女史を茶化するのである。舊國民黨獨裁政權は、一九四七年渡臺後、臺灣語等臺灣住民の一切の母語を禁じ、「國語」である北京語教育を押し進めた。前述のシーンは、吳念眞の當時の國民黨への國語政策批判を表していると考えられるが、こうした描寫に、例えば前掲の表にある、高雄で舞臺を観た者が「この舞臺は當時の社會の言論に對する壓力を表している」と感想を述べるように、同調する觀客も確實に存在する。

吳念眞は公私共に認める民進黨支持者であり、二〇〇〇年陳水扁の總統就任晩餐會の司會を務めたり、二〇一二年總統選舉の際も、民進黨候補者の蔡英文のために「女人當家」というテレビ廣告を友情撮影したりしている。『清明時節』が舞臺化された二〇一〇年の十一月二七日には、新しく制定された「新北市」を含む中華民國直轄市（臺北市、新北市、臺中市、臺南市、高雄市）の市長選と市議會議員選舉が行われた。吳念眞がどこまでこの選舉を意識して舞臺劇『清明時節』を

創作したかは不明であるが、八八水害、米國産牛肉解禁をめぐる混亂等で、二〇〇九年から二〇一〇年の間、馬英九總統への満足度は二〇％（三〇パーセント）と低迷が続いている。舞臺で表現されている舊國民黨政權の獨裁體制に現國民黨政權への不満を重ね合わせる觀客も少なくなかったと考えられる。

### 第三節 臺灣にとつての一九六〇年代

六〇年代後半に發表された鄭清文の原作短編小説は、當時の臺灣社會はおろか文藝界でもあまり話題にされなかつたのに對し、吳念眞の舞臺化がここまで話題になつたのは、現代における六〇年代臺灣に對する特別な感情も一つの理由として考えられよう。

藤井省三は侯孝賢映畫『最好的時光（日本語譯・百年戀歌）』を論じる中で、同映畫の第一部「戀の夢」が一九六六年に設定されている點について、「一九六六年とは、激動の舊國民黨統治期における東の間の安定期であつた」と指摘している。臺灣に渡つた舊國民黨政府は、一九四七年「二・二八事件」による臺灣人大量虐殺により、臺灣島内の國民黨批判を壓殺した後、一九六〇年代に入つても白色テロと呼ばれる思想彈壓體制の下、獨裁政權を保つ。一九五七年からのアメリカ支援に加え、一九六五年には日本による經濟援助が始まり、ベトナム戰爭特需で高度經濟成長政策を軌道に乗せる。一九六六年に文化大革命が勃發して大混亂に陥る中國大陸とは對照的に、臺灣では同年中華文化復興運動を推進し、獨裁政權は安定期を迎えたのである。

しかし、このような六〇年代の安定期に對し、七〇年代に入ると、アメリカや日本との斷交、國連脱退、そして一九七九年の美麗島事件等の民主化運動の激化等、舊國民黨政權は内憂外患の時期を迎えるのである。藤井は、『百年戀歌』『戀の夢』は、一見「靜かに、のどか

に、普通の若者」の戀の夢を描いているかのようであるが、實は臺灣百年史折り返し時點における、迫り來る國際的孤立化と臺灣民主化という大轉換期への不安をさりげなく語つてもいるのである<sup>(8)</sup>と續ける。臺灣住民にとつて、六〇年代とは、一見のどかな時代でありながら、迫り來る不安も入り交じる、様々な敘事性と敘情性が融合する時代なのである。

一九五二年に生まれた吳念真にとつて、一九六〇年代は少年時代に當たる。吳念真が一九六七年に小學校を卒業するまで生まれ育つた故郷、臺北縣瑞芳鎮九份近くにある侯硐は、日本統治時代から鑛業の町として發展し、特に六〇年代は瑞三鑛業公司を中心に最も榮えたのであつた。吳念眞の代表作である自傳的映畫『とうさん』では、主人公の少年時代（六〇年代）、炭坑の繁榮を象徴するかのようによく暮らす炭鑛労働者の父の様子と、その後、主人公の成人後、炭坑の衰退と共に、炭坑の仕事が原因で肺病を患い、衰えていく父の様子が對照的に描かれている<sup>(9)</sup>。吳念眞にとつても、六〇年代の臺灣は、自らが成長する懐かしい少年時代であり、六〇年代に書かれた鄭の小説を舞臺劇にした時、六〇年代臺灣における束の間の安定期と、迫り來る大轉換期への不安は、そこに自然と語られたのではないだろうか。

舞臺劇『清明時節』で表現された六〇年代の臺灣は、梨花の家が日本式家屋であることや、何人かの登場人物が下駄を履いていること、またローカルなフルーツパーラー等、現代の臺灣の人々に懐古を感じさせるのに十分なほどに演出されている。また、「鎮民調停委員會」と赤地に白い文字で書かれた横斷幕は、右から左に文字が並べられていたり、その下には中華民國の國旗である青天白日旗と國父である孫文の肖像畫が掛けられていたりすること、綺麗な標準中國語を話す陸

女史が着るチャイナドレス等は、當時の舊國民黨政權の權力の安定を象徴していると考えられる。一方で、愛する男性が自殺し、殘された女性二人のうち、まだ精神的に立ち直っていない年齢の若い不倫相手の梨花が七〇年代臺灣の大轉換期への不安を象徴しているとするならば、彼女よりも年上の妻、秀卿が「彼は今自由よ」と梨花を慰める様子は、單純な隱喩ではあるが、やがて勝ち取る民主化への期待を表していると思像することも可能である。そして、それは、經濟の低迷による高失業率、少子化、政治の不安定、中國大陸との關係等、民主化を達成しつつも、將來に不安を感じている、現代臺灣社會に生きる臺灣の人々の心に響き、彼らに勇氣を與えたとも考えられる。

### おわりに

鄭清文にとつての一九六〇年代は、作家としての黎明期であり、政治的制約はあつたものの、徐々に自身の作品が認められ始め、自信を付けていった時期であつた。そのような複雑な心情が、短編小説「苦瓜」と「清明時節」に描かれた「不倫」に惱まされる登場人物の描寫に反映されているのである。

一方、戦後臺灣史を振り返ってみると、一九六〇年代の臺灣社會は、舊國民黨政權にとつては束の間の安定期であつた。それは、民主化を達成し終えたかに思える現代社會に生きる臺灣住民にとつて、自分自身も臺灣社會も成長期にあつた過去を振り返る、ノスタルジアを感じさせる時代でもあり、それは吳念眞の舞臺劇『清明時節』が成功を収めた理由の一つでもあろう。舞臺劇の中で不倫相手の女性が象徴する七〇年代臺灣の大轉換期への不安は、現代に生きる臺灣人の不安とも重なり、正妻が彼女を慰める姿に、觀衆は勵まされたとも考えら

れる。

そして吳念眞は憧憬する鄭清文の作品を舞臺化する中で、自らの政治批判思想もさりげなく語ること、現在の國民黨政權に不満を持つ人々の共感を得た。不倫という題材が受け入れられやすい現代臺灣の社會事情や、メディア等も使った商業戦略も舞臺劇の成功の重要な理由であろう。

また、鄭清文は一歳の時に子のいない親戚の家に跡継ぎとして養子に出され、世代繼承を重視する家父長制という傳統的な社會制度の下で孤獨な少年・青年時代を送った。鄭は二編の短編小説において、父親の死と、慈母のイメージとはかけ離れた女性像を描くことで、従來の家父長制を中心とした當時の抑壓的な社會への批判を表現した。

一方、吳念眞は舞臺劇において、生前の男性の苦惱を中心に描いている。吳は、前述した代表作である自傳的映畫『とうさん』で、日本植民統治を終え、國民黨時代に生きながらも日本時代を懐かしみ、息子や孫息子にも理解されず、最後は自殺をする孤獨な父親を登場させている。時代に翻弄され続ける孤獨な臺灣の「父親像」を、吳念眞は舞臺劇『清明時節』でも描こうとしたのだ。それだからこそ、吳念眞は鎮民調停委員會のシーンにおいて、輝昌の孤獨を浮かび上げさせ、まるで映畫『とうさん』の中の孤獨な「とうさん」のように、輝昌を自殺させたのだ。

鄭は、六〇年代當時臺灣における抑壓された社會に生きる人々を、當時は重大な社會問題として厳しく扱われた不倫問題に悩む男女を通して描きだした。鄭のこの二作品は、吳念眞によって、束の間の安定期でありながらも、迎える七〇年代の大轉換への不安を帯びた、ノスタルジックな六〇年代臺灣の再現として舞臺化され、舞臺劇はその

ノスタルジアの中に、當時とは比べて現代臺灣の觀衆にとって身近な話題である不倫というテーマを組み込みながら、現代臺灣に生きる人々の不安を反映させたテキストとして生まれ変わったと言える。

#### 注

- (1) 原文：後來她自己辦純文學出版社，還親筆寫跟我我要搞。（譯文は筆者による。以下同じ。）劉梓潔訪問「冰山理論的實踐者鄭清文」、『聯合文學』第二卷第一〇期第二六二期、二〇〇六年、八二頁。
- (2) 松崎寛子「作家インタビュー」鄭清文とその時代、その作品、『東京大學中國語中國文學研究室紀要』第八號二〇〇五年、二七—一三〇頁。
- (3) 同上論文、一三〇頁。
- (4) 筆者は臺灣國家圖書館の「臺灣期刊論文索引系統」で鄭清文の短編小説「苦瓜」及び「清明時節」に關する記事を檢索したが、關連記事を見つけることはできなかった。（二〇一四年一月現在）
- (5) 原文：好像對友仁背後的輝昌說的。鄭清文「苦瓜」、鄭清文短篇小說全集 卷1 水上組曲 臺北：麥田出版、一九九八年、二〇六頁。
- (6) 原文：「名義上，我們還是夫妻。我和梨花一起。」「我呢？」「妳可以自由行動。」「我也可以找其他男人？」「當然可以。」「什麼話？你以為我和那個婊子一樣，可以隨便換男人？」「妳不要開口婊子閉口婊子好不好？」同上書、二二二頁。
- (7) 『中華民國臺灣省人口統計民國五十八年』南投：臺灣省政府民政廳、一九六九年、一〇—一一頁。
- (8) 『一〇一年內政部統計年報』<http://sowf.moi.gov.tw/stat/year/list.htm>（二〇一三年九月二八日アクセス）
- (9) 民國五十幾年，那時候剛好是臺灣經濟起飛的年代，外遇問題也差不多

就是那個年代開始被關注。王健任紀錄整理「相約在清明時節 吳念真 × 鄭清文」、《聯合文學》第二十六卷第一期第三十一期、二〇一〇年、一六五頁。

(10) 原文：其實外遇從以前到現在，每個年代也一直都有，只是不像現代風氣這麼自由，現代人可能看得就比較淡，當時就會被當成一種很嚴肅的社會問題來看待。同上論文、一六五頁。

(11) 原文：只要讓人家知道原因不在我。鄭清文「苦瓜」、《鄭清文短篇小說全集 卷1 水上組曲》臺北·麥田出版、一九九八年、二二四頁。

(12) 原文：我已答應替秦太太洗一個月衣服。也許我可以做做看。同上書、二三八頁。

(13) 原文：「我，我要走了」華堂沮喪地說。「媽，華堂伯伯還會來嗎？」友仁問。「媽想是會的。」「真的嗎？」「真的。你們趕快把牛奶喝了，去睡覺。」「媽，牛奶最好吃。」「友信也不甘寂寞。「好吃嗎？比苦瓜好吃嗎？」「嗯！」兩個小孩子用力把頭點了一下。她看廚房裏還有兩三個苦瓜，但那總是明後天的吧。同上書、二三八—二三九頁。

(14) 原文：昨夜，我做了一個夢。我又夢見輝昌，那是一種很溫和的夢。我好像在夢中哭過，但一點也不可怕。我好像已可以面對著他了。同上書、二三八頁。

(15) 原文：從昨天晚上他的表情、他的行動、他的言辭，他的姿勢裏，的確確看到了一種決心。有人說自殺是弱者，但也有人持相反的看法。但這又有什麼意義呢？鄭清文「清明時節」、同上書、二六八—二六九頁。

(16) 原文：她雖然不知道那個女人是誰，但她總得讓那女人知道建邦的想法。同上書、二七五頁。

(17) 原文：建邦很懦弱，也沒有責任感。他以爲自殺就可以減輕責任嗎？同上書、二七五頁。

(18) 原文：她曾經對志毅說，你不要像你爸爸那樣沒有責任心。你不要以爲

已逃得乾乾淨淨呀。同上書、二七五頁。

(19) 原文：「媽，我口渴」「不要叫，口渴忍一下」她好像在他的身上看到了建邦的影子。同上書、二七八頁。

(20) 原文：「志毅」「媽，我口渴」「志毅，你向爸爸說一聲再見，到山下我買汽水給你喝」「再見，爸爸」「志毅，爸是好人嗎」「嗯」志毅用力點點頭。「你爸應該是個好人」明霞勉強說完了這一句話，自從建邦死後，第一次真正地流了眼淚。同上書、二八六—二八七頁。

(21) 鄭清文的三女。臺灣臺北生まれ。現在臺灣・中原大學心理系副教授。

(22) 原文：生命的延續，真的一定透過自己的血緣嗎？鄭谷苑，第十章「現代英雄——對傳統的叛」走出峽地 鄭清文的人生故事 臺北·麥田出版、二〇〇七年、二二〇頁。

(23) 原文：重視傳宗接代，同上書、二二〇頁。

(24) 原文：錢再賺就有，但是家人的關係弄壞了，是無法修補的。同上書、三三三頁。

(25) 白水紀子「中國女性的二〇世紀——近現代家父長制研究」明石書店、二〇〇一年、八七頁。

(26) 同上書、一〇七頁。

(27) 原文：莎士比亞說：「弱者，你的名字是女人。」這是真的嗎？〈清明時節〉寫的是兩個臺灣女人，一個是太太，一個是闖入者。在這篇小說裡面，男人是弱者。他選擇逃避，用死來解決困境，把苦難留給兩個女人。慕是死者的歸宿。兩個存活下來的女人，相會了，地點就是那個男人的墓。慕是終點，但是對兩個女人而言，現在卻是起點。鄭清文「我寫〈清明時節〉」、《自由時報》、二〇一〇年十月三日。

(28) 原文：〈清明時節〉的兩個女人，絕不是弱者。同上紙。

(29) 筆者は研究目的のみに使用するという條件で、二〇一一年一月、吳念真監督の許可を得て、綠光劇團 (Green ray Theater) に舞臺劇『清明

時節』の臺本をワードファイルで送って頂いた。本論文中に登場する舞臺劇の臺詞は全てこの臺本からの引用である。また、臺詞は全て臺灣語で書かれている。

(30) 綠光劇團の経歴については、綠光劇團のオフィシャルHP

<http://www.greenray.org.tw/main/index.php> を参照。(二〇一三年九月二八日最終アクセス)

(31) 原文：在原作中梨花這個角色的背景沒有被描寫得很詳細，所以這次改寫成舞臺劇的時候我給她加了一些東西進去，我把她的父親設定為老師。因為父親是老師，梨花還這樣子跟有婦之夫糾纏不清，給自己的壓力就更大了，這更突顯出她是一個很前衛的女性。王健任記錄・整理「相約在清明時節吳念真×鄭清文」、『聯合文學』第二六卷第一期第三二一期、二〇一〇年、一六五頁。

(32) 原文：後來寫到法院那一景，考量到法院在舞臺上不好表現，所以我就把它改成鎮民調解委員會，那就有趣啦，因為參加那種鎮民調解委員會的都是些阿狗阿貓，不是地方流氓，就是隔壁鄰居，每個人七嘴八舌的要來幫他們做決定，根本就亂七八糟，荒謬一場，搞到最後每個人都只是為自己面子作發言，真正需要被調解的當事人最寂寞。同上書、一六六頁。

(33) 原文：今天是為自己來的，不是為著伊、吳念真『清明時節』臺本。

(34) 原文：我未忘記伊的軟弱，殘忍跟不負責任，同上書。

(35) 原文：即嗎伊上自由啦。若一陣風，要吹哪就吹哪，同上書。

(36) 原文：臺灣有很多很棒的文學作品已經漸漸被大眾遺忘，希望透過戲劇演出，讓更多臺灣作家與他們的作品被認識，感受這些作家生長的經驗與感動。「十年計畫，用戲劇推廣臺灣文學」、『中國時報』二〇一〇年九月九日。

(37) 原文：鄭清文是自己打小時候起的文學偶像，大學念輔大會計系也是受到「鄭清文在銀行上班」的影響，那時候想跟他一樣，白天在銀行工作晚上回家有空就寫文章。」因此一想到要將文學作品改編成戲劇，他第一個想到的就是鄭清文。鄭清文的小說讓他想到日本導演小津安二郎，總是很安靜，但是在安靜當中其實有著很多起伏。同上紙。

上回家有空就寫文章。」因此一想到要將文學作品改編成戲劇，他第一個想到的就是鄭清文。鄭清文的小說讓他想到日本導演小津安二郎，總是很安靜，但是在安靜當中其實有著很多起伏。同上紙。

(38) 「清明時節臺中臺北加演囉！」<http://greenraytheatre.pixnet.net/blog/post/45335375> (二〇一三年九月二八日アクセス) 「清明時節恭賀達九成，請把握最後機會！」<http://greenraytheatre.pixnet.net/blog/post/46089978> (二〇一三年十月一日最終アクセス) なお綠光劇團の公式ホームページでは、二〇一三年十一月八日〜十日臺北・國父紀念館で、十一月十六日高雄市文化中心至德堂で、十二月二日新竹縣政府文化局演藝廳で、二〇一四年一月十一日臺中市文化局中山堂で、一月十八日臺南文化中心演藝廳で再公演することを発表している。<http://www.greenray.org.tw> (二〇一三年十一月一日最終アクセス)

(39) 「〇九〇八清明時節記者會」<http://greenraytheatre.pixnet.net/blog/post/45335317> (二〇一四年一月一日最終アクセス)

(40) 痞客邦、yahoo 奇摩部落格、無名小站、yam 天空部落から、『清明時節』を鑑賞したブロガーを十件、鑑賞場所等を考慮して検索した。

(41) <http://shania1210.pixnet.net/blog/post/25792892> (二〇一四年一月一日最終アクセス)

(42) <http://fpure.pixnet.net/blog/post/26450297> (二〇一四年一月一日最終アクセス)

(43) <http://myplusthgh888.pixnet.net/blog/post/25982731> (二〇一四年一月一日最終アクセス)

(44) <http://oneonethsu.pixnet.net/blog/post/19223565> (二〇一四年一月一日最終アクセス)

(45) [http://tw.myblog.yahoo.com/jw!DY3pg\\_udAh543\\_L8ULGI2LfgQ-/article?mid=2999](http://tw.myblog.yahoo.com/jw!DY3pg_udAh543_L8ULGI2LfgQ-/article?mid=2999) (二〇一四年十月一日最終アクセス)

- (46) [http://tw.myblog.yahoo.com/jw!w8RkKwV6RCB7\\_wZXXxGm8ywds/q?c/article?mid=462](http://tw.myblog.yahoo.com/jw!w8RkKwV6RCB7_wZXXxGm8ywds/q?c/article?mid=462) (二〇一四年一月一日最終アクセス)
- (47) <http://www.wretch.cc/blog/wul4169/10209550> (二〇一四年一月一日最終アクセス)
- (48) <http://www.wretch.cc/blog/starstar1027/26354791> (二〇一四年一月一日最終アクセス)
- (49) <http://blog.yam.com/nanh9656/article/32733980> (二〇一四年一月一日最終アクセス)
- (50) <http://blog.yam.com/nibsmahdi/article/33018095> (二〇一四年一月一日最終アクセス)
- (51) 原文：要透過戲劇讓現代觀眾了解整個時代背景跟來龍去脈真的很不容易，所以我才會挑選「外遇」這種每個時代都會發生的故事，朋友聽到都說，唉呦，吳導演你居然會跳外遇這種題(笑)。王健任記錄・整理、前掲論文、一六五—一六六頁。
- (52) 「品格教育推展聯盟」調査 如果人生可重來、「聯合晚報」二〇一〇年二月一日。
- (53) 日本語タイトル『結婚って幸せですか』。日本では二〇一一年六月六日から二〇一二年一月二六日までBS日テレで放送された。
- (54) 臺灣電視公司。一九六二年、臺灣で初めて設立された地上波テレビ放送局。中國電視公司、中華電視公司と並ぶ臺灣の三大老舗テレビ局。
- (55) 原文：他說，當時的臺灣充滿禁忌，很多題材包括政治、情色，都是不能寫的。因此他選擇寫小民的外遇，在外遇中創造當事人的龐大心理困境。「痛苦到釋然，《清明時節》看人性」、「中國時報」二〇一〇年九月九日。
- (56) 原文：一個國家有影要有人家攤會通的話啦，不過，在學校，嘛不要說，沒講要給人罰，講不標準的就說人是臺灣國語，要給人笑。安呢，顛倒有人會不願學、吳念真「清明時節」臺本。
- (57) 原文：我拜託你講國語行不行？這是正式場合！、同上書。
- (58) 原文：講國語哦？不過我怕講國語你更聽不懂、同上書。
- (59) 小笠原欣幸「馬英九政權論(その二)」  
<http://www.tufs.ac.jp/its/personal/ogasawara/paper/mayinjeou2.html> (二〇一四年一月一日最終アクセス)
- (60) 藤井省三「侯孝賢が臺灣百年史映畫を創るとき」、「侯孝賢の詩學と時間のプリズム」あるむ、二〇一二年、四二頁。
- (61) 中國の文化大革命に呼應する運動として蔣介石によって一九六六年一月に開始された。「中華文化」を「三民主義」が體現する民族固有の優良文化であるとし、特に國語の推進を中華文化の宣揚にとって重要な工作とした。菅野敦志「中華文化復興運動と「方言」問題」、「日本臺灣學會報」第五號、二〇〇三年五月、三頁參照。
- (62) 藤井省三、前掲書、四三頁。
- (63) 吳念真『とうさん』についての研究は、小坂史子「臺灣映畫の撮影現場を尋ねて——臺灣の映畫人 吳念眞の精神世界「多桑」撮影現場レポート」『キネマ旬報』一一三九號、一九九四年八月一五日を參照。
- (64) 臺灣では政府の公文書や聯合報や中國時報等主な新聞の標題は横書きでも右から左に文字が並べられていた。しかし、民進黨政権下の二〇〇五年一月三日より、政府の公文書は全て左から右の横書きに書き換えられることが制定された。「公文横書政府起跑」；游揆表示不是去中國化而是布局全球、因爲，復興中華文化，才晚了這麼多年、「民生報」二〇〇五年一月四日。